太陽誘電株式会社
2025 年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答要旨
（2024 年 11 月7日開催）

Q1. 上期から下期にかけての営業利益の増減要因を教えてほしい。

A1. 上期から下期の減益要因としては、上期に在庫（注1）を約 100 億円積み増したが下期の在庫は横ばいを想定しており、稼働率が低下することなどによる操業度の影響が大きい。また、為替に関しても1米ドルが上期平均 153.65 円から下期は 145 円の前提と円高を想定しているため、約 35 億円の減益要因となる。固定費は、減価償却費含め上期から下期で約8億円増加を見込んでいる。製品別では、コンデンサと複合デバイスの通信用デバイス（FBAR/SAW）の売上高予想が期初と比較して減少したことによる影響が大きい。

Q2. 売上が想定に満たない状況の中で、今後の能力増強に関してどのように考えているのか。また、下期の MLCC の稼働率の想定は。市場シェアや競争環境の変化は生じているのか。

A2. 下期は在庫横ばいの前提で、MLCC の稼働率は第3四半期が 75%前後、第4四半期は 70%前後を想定している。MLCC の能力増強は、小型形状から大型形状への変更など中身は変えているが、中期経営計画の設備投資計画 3,000 億円の中で一定のペースで行ってきた。今期に関しては、AI サーバー向けなど大型形状の能力増強が必要と考えており、投資計画は変更していない。来期の投資については、下期中に来期の需要動向を精査する中で再考していく。MLCC のポジションに関しては、従来から変わっていないと認識している。

Q3. 第2四半期のコンデンサの売上高が8月時点の予想では前四半期比+11%～+15%だったのに対して実績は+6%と大きく下回った一方、インダクタは予想+17%～+21%に対して+23%と上回った。コンデンサの売上高の増加が限定的だった背景は。

A3. コンデンサの売上で8月時点の想定と差異が大きいものとして、情報機器、通信機器、情報インフラ・産業機器向けが低調に推移した。通信機器では、中国ハイエンドスマートフォンの調整が長引いている。インダクタに関しては、北米スマートフォンの売上構成比がコンデンサよりも高いため、動きが異なる。

Q4. 下期は営業利益が出ない想定だが、来期以降の収益性改善に向けて、下期にどのようなことを行うのか。

A4. 通信用デバイスは厳しい状況が続いており、固定費を中心に売上に見合った形に持っていくことを想定している。全社としては、急激な需要拡大に備えてある程度の固定費を持っていたが必要な部分に絞り、また、今期下期に市場動向を精査したうえで来期の投資水準を再考するなどの体質強化を図り、来期に備えたい。

Q5. AI サーバー向けに関して、現状と今後の見通しは。

A5. AI サーバー向けの需要は非常に好調で、今期は前年比で 2 倍以上に成長する可能性がある。MLCC の員数も一般サーバーに対して4～10 倍程度多く使用され、静電容量や金額ベースでの恩恵も大きく、特に当社の得意な大容量 MLCC が大幅に増加する。100μF、220μF に加えて、330μF などの超大容量品も搭載されている。サイズが大きく単価も高い市場であり、シェアを伸ばしていきたい。

Q6. 中国ハイエンドスマートフォンが不調とのことだが、下期から来期にかけてどのように推移すると想定しているのか。
A6. 来期に向けて上がってくるだろうとは考えているがまだ不透明感があり、下期は低調が続く前提で計画を立てている。

Q7. バランスシートについて、ネットデットの上限や財務規律をどのように考えているのか。次の中計ではフリー・キャッシュフローを積み上げる方向で計画できるのか。
A7. 今期末でネットデットは 800 億円を少し超える水準と想定しており問題のない範囲だと思っているが、これをボトムに改善の方向にもっていきたいと考えている。次の中計ではネットデットを改善することをベースとし、収益を上げながら必要な投資を行い、それを上回るリターンを出していきたいと思っている。

Q8. 通信用デバイスの立て直しや収益性改善への具体的な取り組み内容は。数量拡大を目指して、ミドル・ローエンドへの拡販は考えていないのか。
A8. 「TLSAW™」や「HPDP」などの新技術を活用し、モジュール用途の拡販に取り組んでいるが、効果が出るのはもう少し時間がかかると想定している。下期は需要に合った生産体制へシフトし、在庫も削減していく。ミドル・ローエンドへの拡販は考えていない。

Q9. 自動車向けの売上が想定を下回ったとのことだが、市況の悪化以外に海外勢との競争関係にも変化があるのか。
A9. 自動車向けの競争環境において、主な競合が日系メーカーという状況に変化はない。市況に関しては、バッテリーEV の減速に伴って一時的に市況は足踏み状態だが、台数以上に部品需要が伸びるという見方に変化はない。

Q10. 在庫を前期末から約 100 億円積み増しているが、適正水準か。
A10. コンデンサやインダクタは適正水準であると考えている。通信用デバイスに関しては需要が低迷していることもあり、下期に在庫を減らす計画。

Q11. 来期は投資を少し抑制するとのことだが、固定費増加ペースはどの程度になるのか。
A11. 減価償却費は今期より増える見込み。人件費や電力費など生産増に伴って増える費用については、需要の伸びなどを勘案して設計していきたい。

注1:在庫増減額は、為替や利益に影響がない部分を除いた実態ベース

※当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことからも、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。